

中 学 校

平成 2 4 年度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	5
IV	研究の方法	6
V	研究の内容	9
1	調査研究	9
2	授業研究	13
(1)	実証授業①	13
(2)	実証授業②	15
(3)	実証授業③	18
VI	研究の成果	22
VII	今後の課題	23

生徒が生き生きと活動し、思考を深める道徳の時間の工夫

I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年9月）第5章第3節1（2）ウには、学習指導過程の展開の工夫として、以下のように示されている。

「生徒が主体的に人間としての生き方を追求し、思考を深めるためには、生徒が道徳的価値を自分のこととしてとらえ、その価値とのかかわりで深く自己を見つめるようにすることが大切である。例えば、二人一組の対話や小集団による話し合い、自分の考えをまとめて書く活動などを取り入れ、授業形態に工夫を加え、生徒が生き生きと活動し主体的に考え、さらにその考えを深められるようにする場面を設定することが、道徳の時間の指導効果を高めることにつながる。」

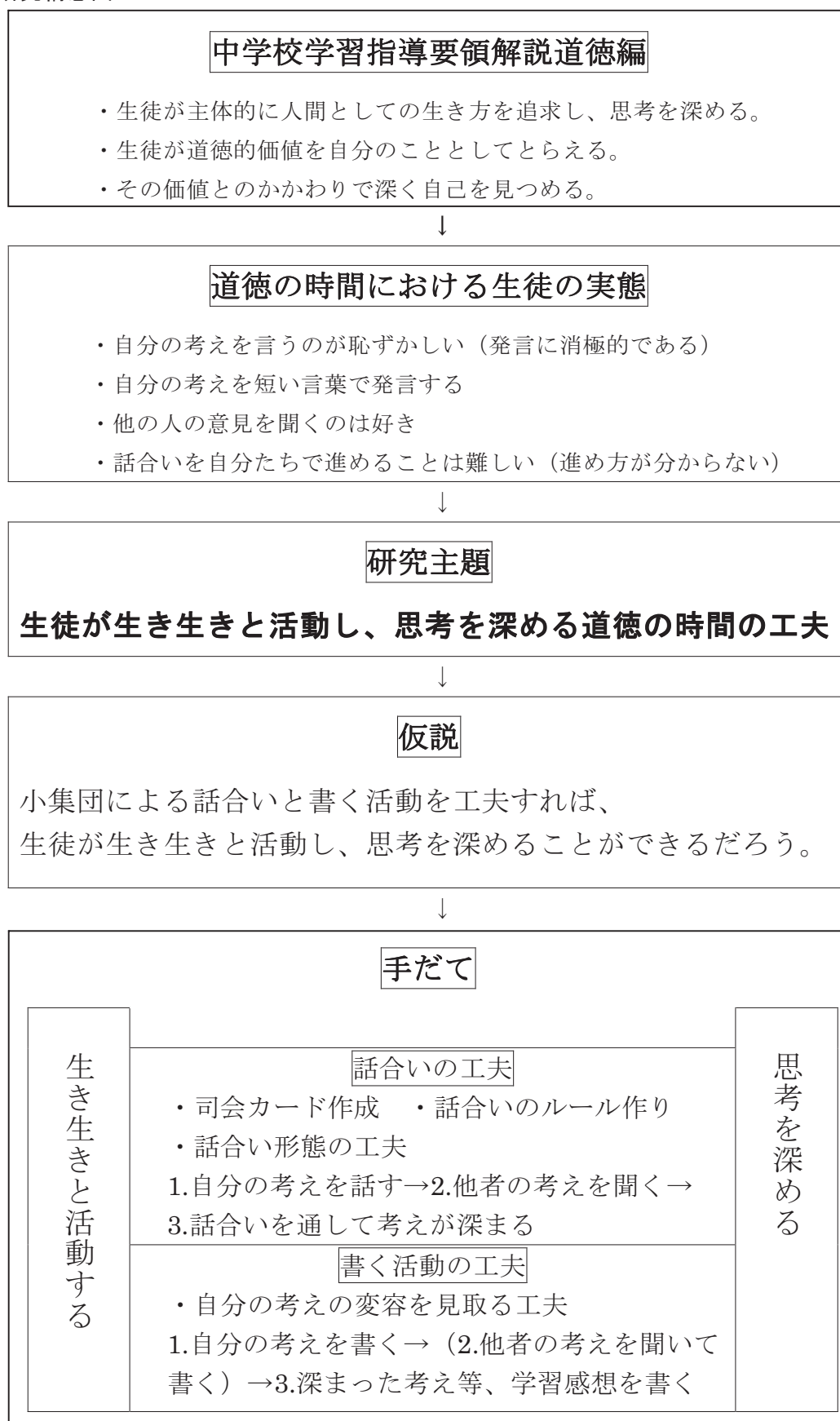
しかしながら、道徳の時間に対する教師の悩みとして、「教師と生徒との一問一答になりがちで深まりが感じられない。」「話し合いを取り入れたら、ねらいにうまく迫れなかった。」「ワークシートに表面的な言葉がならび、授業を通じて思考が深まったとは感じられない。」などが挙げられる。これらの悩みから、生徒の道徳的実践力を高めるために教師は日々努力を続けているが、実感としては、ねらいとする道徳的価値について生徒の思考を深めるには至っていないと感じていることが伝わってくる。

生徒に対して実施した道徳の時間に関するアンケートを見ると、「友達の意見を聞くと楽しい。」「自分の意見を言うのは恥ずかしいが、友達の話を聞くのは好き。」など、話し合いに前向きな意見があることが分かった。また、中学校学習指導要領解説道徳編第5章、第4節4（2）に、「書いたり討論したりするなど表現する機会を適切に設け、ねらいの根底にある道徳的価値を自覚する手立ての一つとして生かしていくことが求められる。」とあるように、「話し合い」と「書く活動」を工夫することにより、道徳の時間のねらいである道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深めることを促すことになると思われる。

そこで、本部会では、話し合いと書く活動に着目し、「生徒が生き生きと活動し、思考を深める道徳の時間の工夫」を研究主題として研究を進めることとした。

II 研究の視点

1 研究構想図



2 「生き生きと活動」、「思考を深める」について

研究を進めるにあたり、道徳の時間における「生き生きと活動」すること、また「思考を深める」とは生徒のどのような姿を示すのかを考えた。『中学校学習指導要領解説道徳編第5章3節1（2）ウ』によれば、以下のように示されている。

生徒が主体的に人間としての生き方を追求し、思考を深めるためには、生徒が道徳的価値を自分のこととしてとらえ、その価値とのかかわりで深く自己を見つめるようにすることが大切である。例えば、二人一組の対話や小集団による話し合い、自分の考えをまとめて書く活動などを取り入れ、授業形態に工夫を加え、生徒が生き生きと活動し主体的に考え、さらにその考えを深められるようにする場面を設定することが、道徳の時間の指導効果を高めることにつながる。

生徒が書いたものはファイルなどして、自分自身の感じ方や考え方の変化を確かめたり、自分自身の成長を実感し明日への課題をもつことができるようにしたりすることなど、有効に活用することが求められる。

また、生徒と生徒が自分の感じたことや考えたことを語り合ったりするなど、話し合いが中心となる授業では、生徒同士が顔を見て話し合うことができるような座席の配置にするなどの工夫も大切である。

このことから、道徳の時間における「生き生きと活動」すること、また「思考を深める」とはどのような状態を示すのかを考えた。

「生き生きと活動」するとは、導入や終末などにおける教師の主導により盛り上がっているように見える活動のことではない。また、生徒が自由に発言しているだけの状態でもない。道徳の時間では、挙手をする生徒、自分の意見を積極的に発言する生徒がいる一方で、自らの積極的な発言はなくとも、友達の発言をよく聞いて、静かに考えを深める生徒もいる。どちらも道徳の時間のねらいに迫る思考や自分を見つめる思考を積極的に行っていると捉え、「生き生きと活動」している姿と考える。また、「思考を深める」とは、道徳的価値に対する自分の考えを明確にして終わりではなく、その考えを友達や教師に伝え、反応を得て、更に考えていくことであると捉えた。

そこで、小集団による話し合いを行い、生徒一人一人が発言する機会を十分に確保する。生徒は其中で友達の意見を聞き、様々な見方・考え方・感じ方に触れることができる。合わせて、書く活動を小集団による話し合い前後に取り入れることで、自分の考えを明確にしたり整理したりすることができる。このように小集団による話し合いと書く活動を毎回の道徳の時間に取り入れ、自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりする活動が日常のものとなれば、道徳の時間に意欲的に参加するとともに、道徳的価値についても深く考えることができる。また、学級の人間関係が深まることも期待できる。

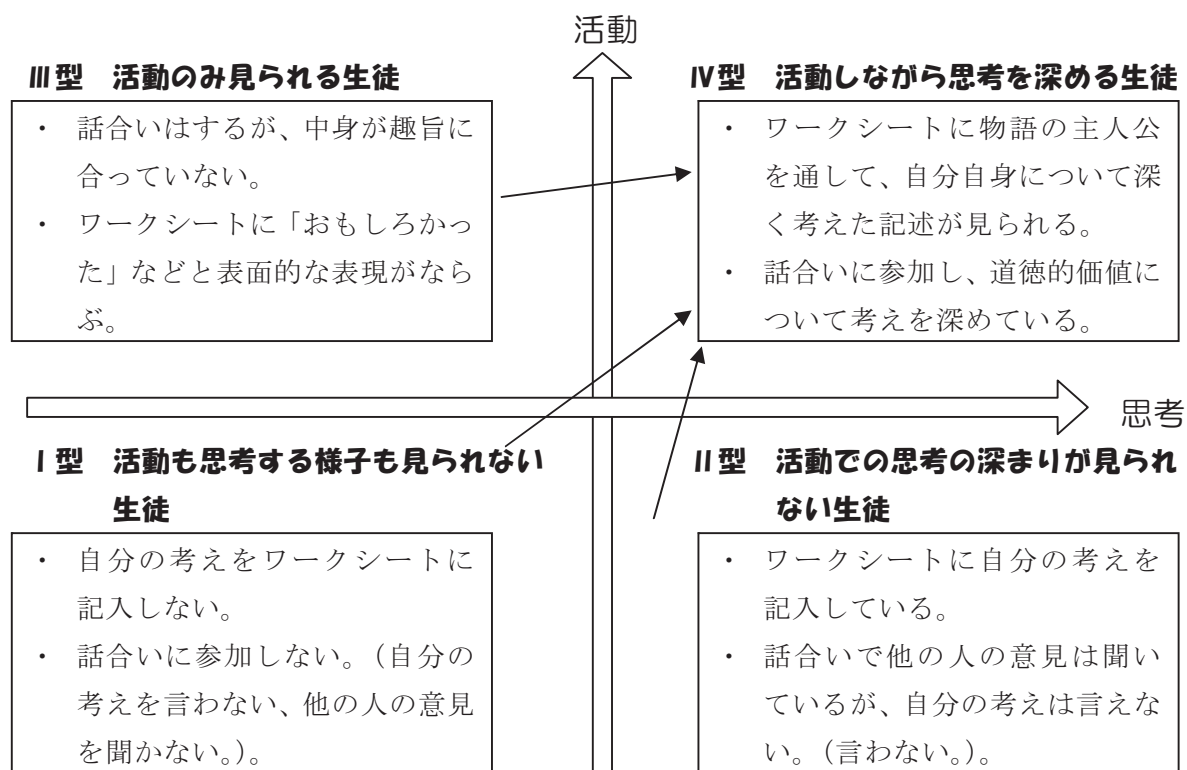
以上のことから、道徳の時間において小集団による話し合い及び書く活動を取り入れることで、「生き生きと活動」し、「思考を深める」ことができるのではないかと考えた。

このような活動が活発に行われている道徳の時間では、次に挙げるような生徒の姿（「活動しながら思考を深める生徒（Ⅳ型）」）が見られると予想した。

「活動しながら思考を深める生徒（IV型）」

- 資料の主人公（登場人物等）を通して、自分自身について深く考えて、ワークシートに記入している。
- 他の人の意見を聞き、また自分の考えも伝えたりする中で、道徳的価値について考えを深め、ワークシートに記入している。

一般的には、以下のⅠ～Ⅳのタイプの生徒が混在していると考える。



Ⅰ～Ⅲ型の生徒を、活発な話し合いの中から道徳的価値を深めようとするⅣ型に進めるためにどのような手だてが必要であるのかを考え、研究を進めた。

Ⅲ 研究の仮説

小集団による話し合いと書く活動を工夫すれば、
生徒が生き生きと活動し、思考を深めることができるだろう。

1 小集団による話し合いの工夫

生き生きとした話し合いができる環境は、その時間だけでつくるものではなく、少しずつ積み上げていくものであると考える。よって登場人物の葛藤場面が描かれた資料など特定の読み物でしか扱えないような方法ではなく、年間を通して、どんな授業の中でも活用できる方法であることを前提とした。「どんなクラスでも、どんな資料でも、どんな教師でもできる」小集団による話し合いの方法を見つけるためには、「指導過程において、どのタイミングで・どのくらいの時間で・どんな座席配置で・何人で・どんな進め方で」話し合うのかを、細かく検討する必要がある。

2 書く活動の工夫

話し合いと同様に、書く活動も生徒の思考を深めるために重要である。話し合いを経て最後に自分と向き合い、考えをまとめる作業として「書く」ことは道徳の時間のまとめの学習と言える。

また、話し合いに参加することが難しい生徒や発言が苦手な生徒の心の動きを探る手がかりとなるのも、書く活動で記入したワークシートである。授業者が道徳の時間を評価するために役立つ材料にもなる。

具体的なワークシートの工夫について、以下のように考えた。

- ・自分と向き合い、考えを整理しながら書くことができる。
- ・話し合いの過程で変化したことに気付くことができる。
- ・道徳の時間にどのくらい真剣に取り組むことができたか、振り返ることができる。

以上のことから、「1 小集団による話し合い」「2 書く活動の工夫」を実践し、検証することによって、道徳の時間が生き生きとしたものとなり、生徒の思考がより深まるだろうと仮定した。

IV 研究の方法

1 小集団による話し合いの工夫

生徒が生き生きと活動するには、生徒が資料中の登場人物を通して自分の考えを深めることが大切である。そのために小集団による話し合いを導入し、自分の考えを他者の考えと比較してさらに自分の考えを深めて整理する過程を授業展開に取り入れた。小集団による話し合いにおいて生徒が自分の考えを深め、さらに話し合いを円滑に行うために、以下の工夫をした。

(1) 道徳の時間のオリエンテーションの活用（話し合いの意義の共通理解）

アンケート結果に反映されているように、生徒は友達の意見を聞くことに対して関心が高い。目的が漠然としている中で始まるのではなく、「話し合いは、いろいろな人の意見を聴くための時間である」という大前提を生徒にしっかり伝える時間をとることが大切であると考えた。人の意見をしっかりと聞く、そのためにも自分の考えもしっかり伝えることが大切だということを確認する。話し合いの意義を理解することによって、どのように参加すべきか明確にして、話し合いがよりスムーズに進行することを目的とした。

(2) 資料の選定

生徒が話し合いをしやすい資料として、一般的に「主人公が道徳的に変容する資料」や「主人公が葛藤する場面がある資料」が考えられる。しかし、感動的な資料、論述的な資料でも中心発問を工夫することで、生徒の話し合いは十分できると考えた。

(3) 発問構成

小集団による話し合いを活性化するには、発問構成は重要な要素である。ねらいに迫る発問は生徒が個人でじっくりと考えるきっかけとなり、小集団による話し合いで他者の多様な意見に触れることにより、更に思考を深めることができる。

そこで、中心発問にふさわしい発問として、ねらいに迫ることができる発問であり、多様な考え方が引き出される発問を吟味した。

(4) 話し合いの進行

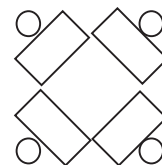
小集団による話し合いの留意点は以下のとおりである。

ア 小集団の人数

小集団の人数は4人を基本単位とした。6人では人数が多く多様な意見を聞くことができるが時間がかかる。2人では人数が少なく多様な意見が聞けない。そこで、4人が適当だと考えた。

イ 小集団の座席配置

座席配置を口の字（右図参照）にした。これにより、自分以外の3人の顔が見えるため、自分の考えを言いやすく、また他者の意見に対して反応がしやすくなると考えた。

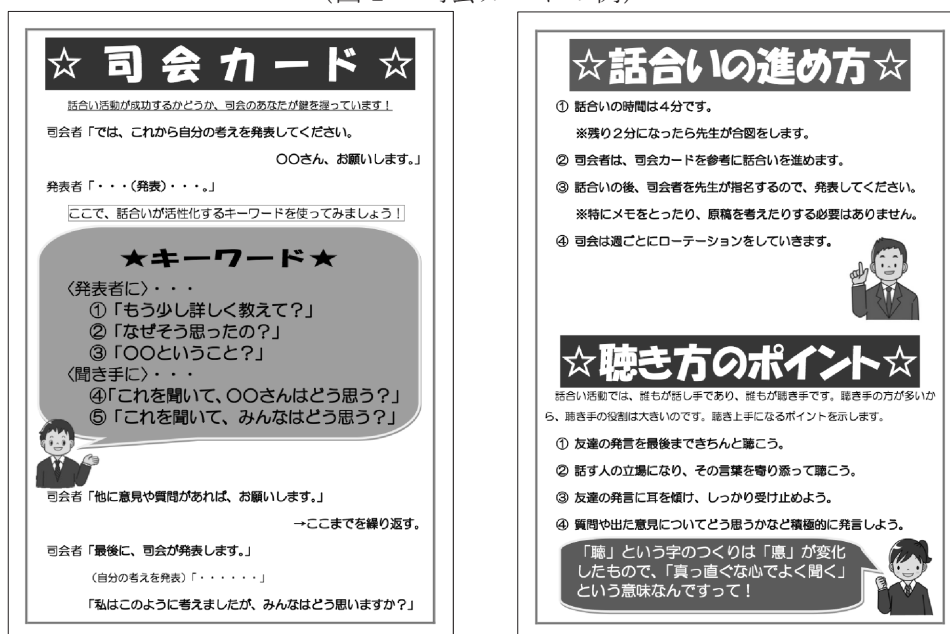


ウ 司会カード（図1）の導入

小集団による話し合いが円滑に行われるように、司会カードを導入した。司会進行の仕方を示し、順番に自分の意見を発言させていくだけでなく、発言に対しての反応の仕方も示した。数週間、司会カードを用いた小集団による話し合いを行い、慣れてきたところで司会カードを見ずに、生徒が互いに自分の考えを述べ、それに対して反応し、考えを更に深められるようにしていく。班の意見をまとめたり、答えを一つにしたりしないように留意し

た。

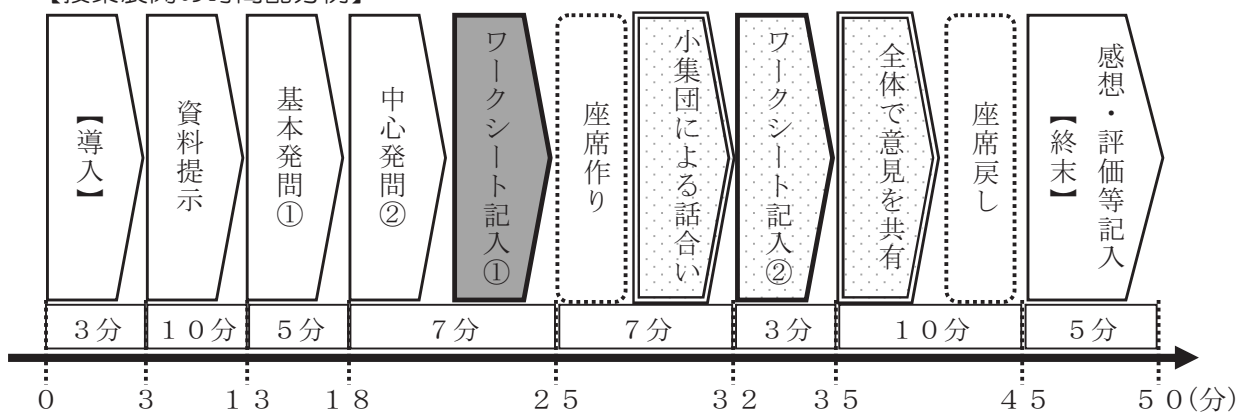
(図1 司会カードの例)



(5) 学級全体での共有

小集団による話し合いを終えた後に、学級全体で考えを共有する時間を設定した。他の小集団で出た意見を聞くことで更に自分の考えを深めることをねらった。このとき授業者は、まず司会者を指名し、小集団での話し合いの内容等について発言を求めるが、展開によっては、他の生徒に発言させる等、学級全体で考えが広がったり、深まったりするようにコーディネートする。

【授業展開の時間配分例】



2 ワークシートの効果的な活用

道徳の時間において、書く活動は、「生徒は書く活動を通して、自分のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたり、記録に留めたりすることができる。それらをもとに今までの自分のものの見方、考え方、感じ方を振り返ることもできる。」(中学校学習指導要領解説道徳編第5章第4節4(2))と記載されているように、道徳の時間のねらいに迫るために有効である。しかし全ての発問に対して書く時間を確保すると、書くことに追われて「道徳的価値の自覚を深める」という本来の目的を見失いかねない。そこで、本研究では、以下

のようにワークシート（図2）を活用することにした。

(1) 中心発問において

中心発問に迫るための基本発問に関してはワークシートを使用せず、最も考えを深めてほしい「中心発問」でワークシートを活用することにした。これは、ねらいとする価値に深く迫るためにも、書く活動を焦点化し、書く時間を確保する必要があると考えたからである。

(2) 小集団による話し合いにおいて

ワークシートは中心発問に対する自分の考えを書く欄を左に、小集団による話し合いや全体での共有を経て気付いたことを書く欄を右に設けた。左の欄は、話し合いの前に記入し、自分の考えを整理するためのものであり、右の欄は、共感したり、納得したりした友達の考え、及び自分の考えが変化した場合にメモする欄である。生徒が自由に記述できるので、生徒の考えの変化を見取ることにもつながる。

(3) 終末において

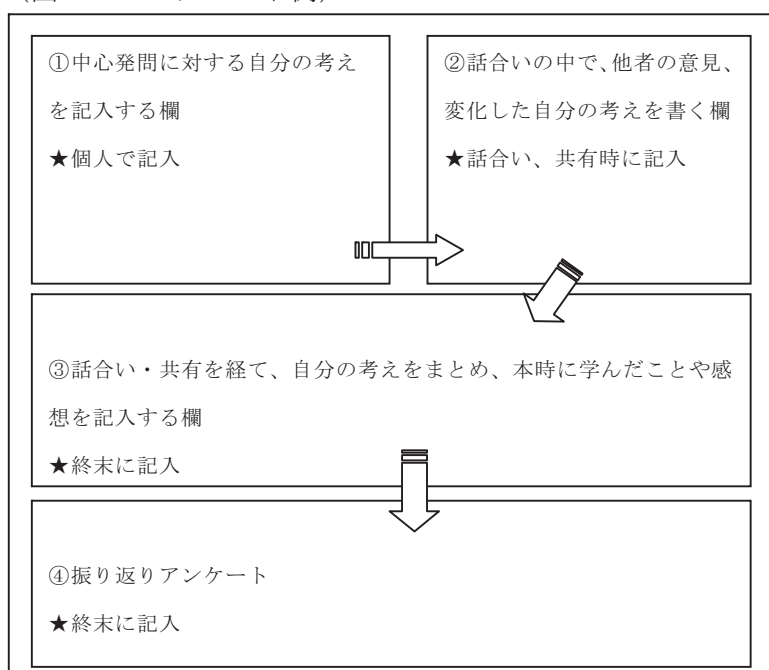
小集団による話し合いの後の、全体での共有を経て深まった自分の考えを書く欄を設けた。ペンネームを書く欄も設け、学級便り等での公表の際に、生徒の心情に配慮することも考えられる。

(4) アンケートとして

生徒の授業に対しての振り返りと、教師の授業評価の意味も含めて、アンケート欄を設けた。アンケートの項目に関しては、話し合いを通じて考えを深めることができたかどうか重点をおいたものとし、生徒が自己の活動を振り返りやすいものにした。

1. 資料について、興味をもって読めましたか？	A	B	C	D	A 意欲的にできた
2. 自分の考えを伝えることができましたか？	A	B	C	D	B できた
3. 友達の考えを聞くことができましたか？	A	B	C	D	C あまりできなかった
4. 授業の内容について、深く考えることができましたか？	A	B	C	D	D できなかった

(図2 ワークシート例)



V 研究の内容

1 調査研究

(1) 調査概要

ア ねらい

生徒が道德の時間に感じていることを把握する。本研究により、生徒にどのような変化が生じたか確認する。

イ 調査内容・方法

調査内容は、調査結果にある7項目を質問紙法により調査した。

また、「道德の時間は好きであるか」、「道德の時間に発言したいと思うか」、「道德の時間に友達の考えを聞きたいと思うか」の質問項目では、その理由についても質問を行った。

ウ 調査時期

平成24年9月と11月の2回

エ 調査対象

都内公立中学校5校の生徒421名を対象に調査を行った。

(2) 調査結果

本研究で検証する「司会カードを使用した小集団による話し合い」と「ワークシートの活用」について、実証授業の実施前と実施後についての変化を分析した。

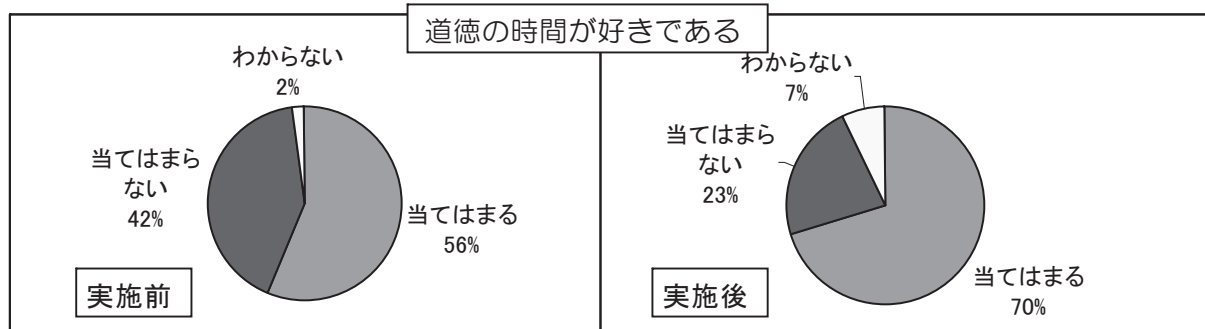
ア 道德の時間が好きか。

実施前のアンケートでは、「道德の時間が好きである」という問いに対し、**「当てはまる」の回答が56%**であり、半数以上の生徒は道德の時間が好きであるということが分かる。その理由として、「話し合いで考えが広がるから」や「自分のためになることが多いから」「いろいろと考えることができるから」「自分を見直すことができるから」という意見があった。「考える、見直す、自分のためになる」という共通した意見が多くあった。

「当てはまらない」と回答した生徒は42%であり、4割を超える数であった。その理由として「よく分からないから」「難しいことを考えるから」「自分の意見を言うのが恥ずかしいから」などの回答が多く見られた。

実施後のアンケートでは、「道德の時間が好きである」という問いに対し、**「当てはまる」とした回答が70%**あり、大幅に増加した。その理由として、「自分の意見を積極的に発言できるから」「自分の考えを言えたり、クラスの人の考えを聞くことができるから」「話を聞きながら考えることができるから」などがあつた。共通した意見では、「自分が発言することができる、他の意見を聞くことができる、考えることができる」などが多くあつた。

「当てはまらない」と回答した生徒は23%であり、実施前より大幅に減少した。

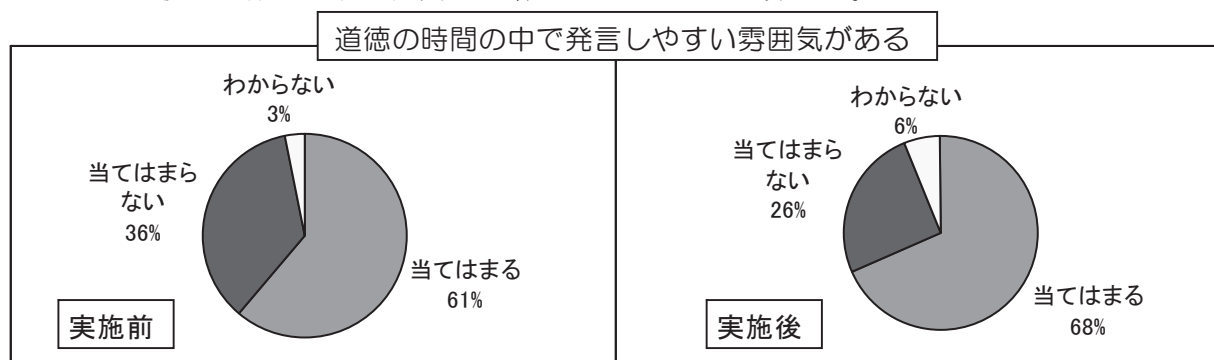


イ 道徳の時間の中で発言しやすい雰囲気があるか。

実施前のアンケートでは、「道徳の時間の中で発言をしやすい雰囲気がある」との問いに対し、「**当てはまる**」と回答した生徒は**61%**となった。「**当てはまらない**」と回答した生徒は**36%**であった。半数以上の生徒が、道徳の時間の中で、何らかの発言がしやすい雰囲気があると感じている。

実施後のアンケートでは、「道徳の時間の中で発言をしやすい雰囲気がある」との問いに対し、「**当てはまる**」と回答した生徒は**68%**となった。「**当てはまらない**」と回答した生徒は**26%**であった。

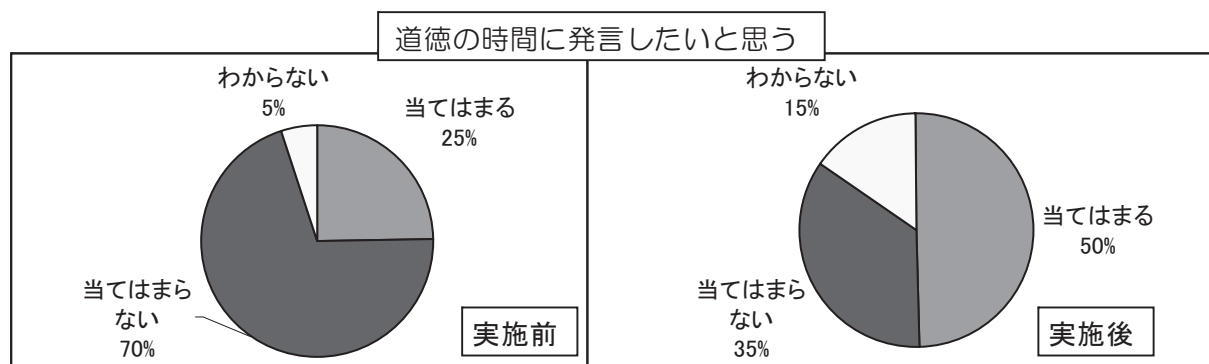
実施後には話しやすい雰囲気が増加していることが分かる。



ウ 道徳の時間に発言したいと思うか。

実施前のアンケートでは、「道徳の時間に発言したいと思う」という問いに対して、「**当てはまる**」と回答した生徒は**25%**であった。その理由としては、「機会があれば発言したいから」「皆と意見交換をしてみたいから」などの意見があった。「機会があれば、発言できるならしたい」などの意見が多く見られた。「**当てはまらない**」と回答した生徒は**70%**であった。

実施後のアンケートでは、「道徳の時間に発言したいと思う」との問いに対し、「**当てはまる**」と回答した生徒は**50%**となった。「**当てはまらない**」と回答した生徒は**35%**であった。当てはまる、よく当てはまるに回答した生徒の意見には、「発言できる雰囲気がある」「司会カードがあるから」「自分の考えを伝えたいから」などがあつた。当てはまらなると回答した生徒の意見では「人前で話したくない」「できれば自分の考えを人に聞いてもらいたくない」などがあつた。自らが発言することに関しては、依然として消極的な傾向も見られる。

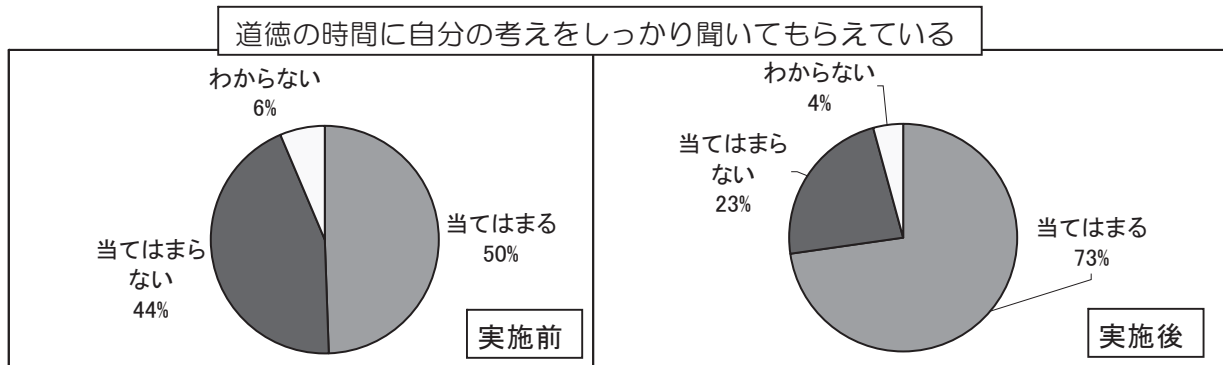


エ 道徳の時間に自分の考えをしっかりと聞いてもらえているか。

実施前のアンケートでは、「道徳の時間に自分の考えをしっかりと聞いてもらえている」と

の問いに対して、「当てはまる」と答えた生徒は50%であった。「当てはまらない」と回答した生徒が44%であることから、半数の生徒が自分の考えをしっかりと聞いてもらえていると実感していることが分かる。

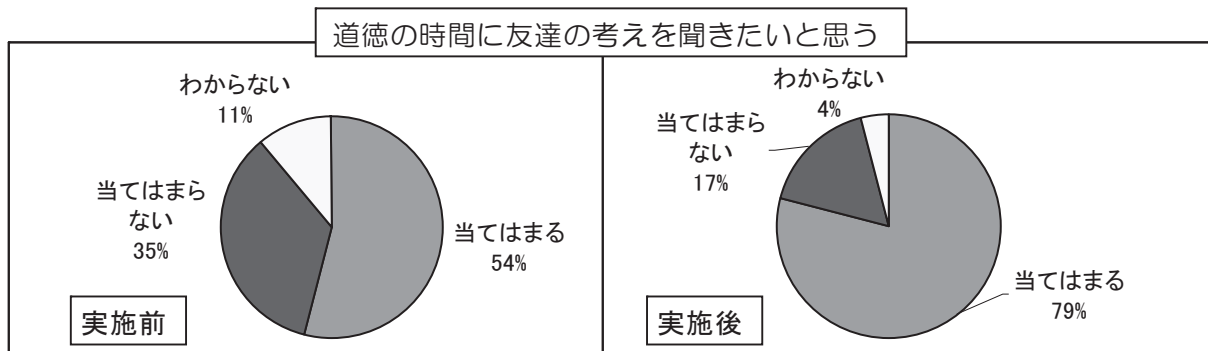
実施後のアンケートでは、「道徳の時間に自分の考えをしっかりと聞いてもらえる」との問いに対し、「当てはまる」と回答した生徒は73%となった。「当てはまらない」と回答した生徒は23%であった。小集団による話し合いで、自分の考えを発言する機会が増えるとともに、司会カードの活用により友達の意見の受け止め方も上達したことが分かる。



オ 道徳の時間に友達の考えを聞きたいと思うか。

実施前のアンケートでは、「道徳の時間に友達の考えを聞きたいと思う」との問いに対し、「当てはまる」と回答した生徒は54%であった。その理由として、「他人の意見が共感できるかもしれないから」「友達の考えは大切だと思うから」「他の意見は参考になるから」「良い発見があるから」「自分以外の人意見を聞きたい」などがあつた。他の意見を大切に思う理由が多くあつた。「当てはまらない」と回答した生徒は35%であった。その理由として、「聞いてもあまり変わらないから」「意見を聞くのが苦手だから」「なんとなく」などの回答があつた。

実施後のアンケートでは、「道徳の時間に友達の考えを聞きたいと思う」との問いに対し、「当てはまる」と回答した生徒は79%となった。「当てはまらない」と回答した生徒は17%であった。「よく当てはまる」と回答した生徒の理由には、「友達の意見を聞いて、なるほどと思うようなことがあるから」「自分にはない考え方があることが分かるから」などがあつた。「当てはまらない」と回答した生徒では、「聞いても問題の解決にならない」、「意見を聞くのが大変だから」などの回答があつた。

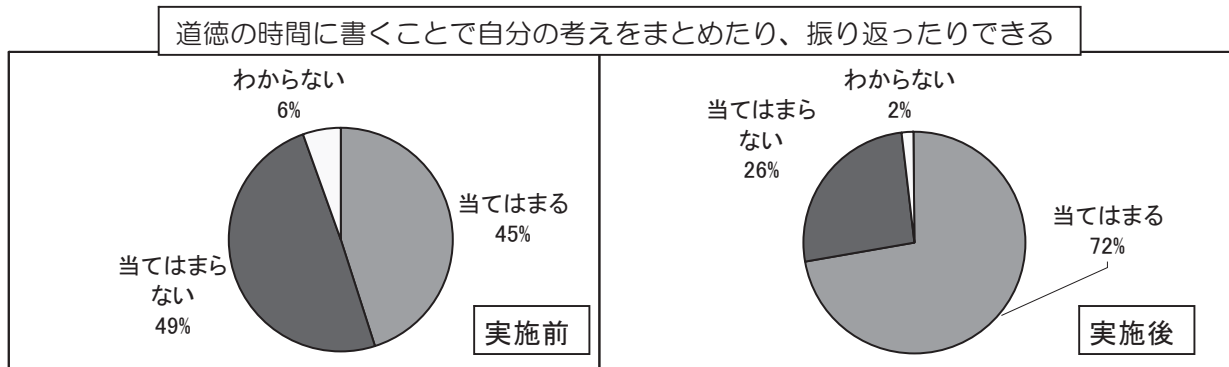


カ 道徳の時間に書くことで自分の考えをまとめたり、振り返ったりできるか。

実施前のアンケートでは、「道徳の時間に書くことで自分の考えをまとめたり、振り返

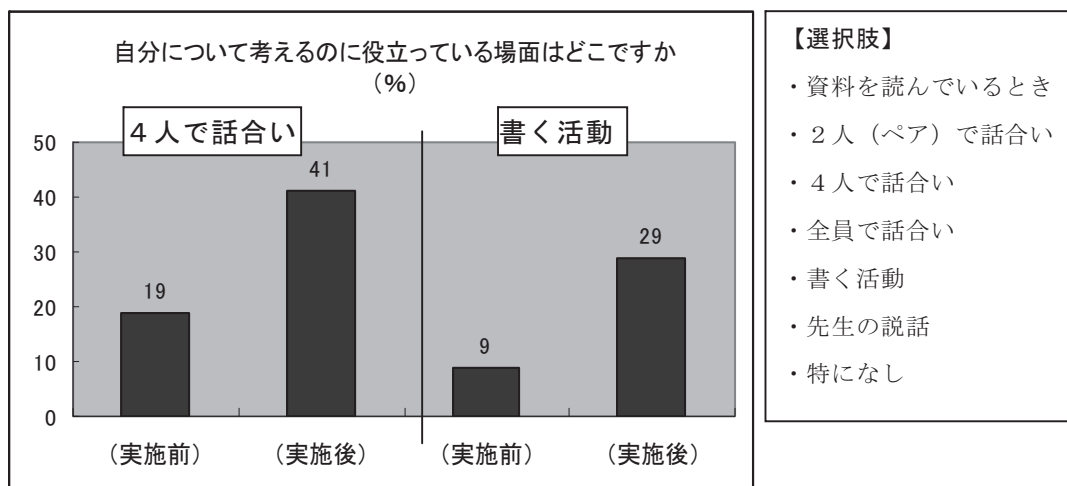
たりできる」との問いに対して、「当てはまる」と答えた生徒は45%であった。「当てはまらない」と回答した生徒が49%である。

実施後のアンケートでは、「道徳に時間を書くことで自分の考えをまとめたり、振り返ったりできる」との問いに対し、「当てはまる」と回答した生徒は72%となった。「当てはまらない」と回答した生徒は26%であった。書く活動は以前から道徳の時間に取り入れられているが、生徒の意識に大きな変化が見られた。



キ 道徳の時間の中で、自分について考えるために役立っている場面はどこか。

この項目では、「道徳の時間の中で、自分について考えるために役立っている場面はどこですか。(複数回答可)」との問いの中で、仮説にある「小集団で話し合い」と「書く活動」について調査するために、「4人で話し合い」「書く活動」の2項目に対する回答を分析した。実施前のアンケートでは、「4人で話し合い」の場面が19%、「書く活動」の場を挙げた割合が9%であった。実施後では「4人で話し合い」の場面が41%、「書く活動」の場面が29%であり、いずれも数値が上昇していることが分かる。



(3) 考察

2回のアンケート結果では、肯定的な数値が上昇し、本研究で考えていた「小集団による話し合いの工夫（司会カードと4人グループ）」と「書く活動の工夫（ワークシート）」の効果が現れていた。

よって、小集団による話し合いにおいて司会カードや小集団の人数を4人としたり、ワークシートを工夫したりすることにより、生徒が発言しやすい雰囲気ができ、自分の考えを聞いてもらえる安心感が増す等、研究主題に迫るために効果的であったことと考えられる。

2 授業研究

「司会カード」と「ワークシート」を使った話し合いを取り入れた授業によりを検証した。

(1) 実証授業①（平成24年9月14日 第3学年）

ア 主題名 きまりの遵守 4－（1）

イ 資料名 「元さんと二通の手紙」（自分をのばす 中学生の道徳 あかつき）

ウ 資料の概要

動物園職員の元さんが、入園時刻に関する規則を破り、幼い2人の子供を動物園に入れてしまう。子供たちのためにと考え、きまりを破ったことが、何の関係もない動物園の職員など、大勢の人に迷惑をかけてしまう。子供たちの保護者から感謝の手紙が届く一方、動物園からは解雇通知が届き解雇となる。しかし、動物園を去っていく元さんは晴れ晴れとした表情を見せる。きまりを遵守することの意味を考えさせられる資料である。資料では元さんの心情を追いながら、法やきまりの意義やきまりの遵守、社会の秩序や規律についての考えを育みたい。

エ ねらい

法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ、義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努めていこうとする心情を育む。

オ 指導過程


	学習活動と○主な発問	・予想される生徒の反応	□指導上の留意点 ▽補助発問等
導 入	1 身のまわりのきまりにはどのようなものがあるか。(3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通のきまり。 ・校則や法律。 	□身のまわりのきまりを思い起こさせ、本時の展開につなげる。
展 開	2 資料を読んで話し合う。 教師の範読(10分) あらすじを確認する。(1分) ○元さんが2人を特別に動物園へ入れたのはなぜだろう。(5分) ○2人を捜索している間、祈る様な気持ちで連絡を待っていた元さんはどんな思いだったか。(5分) ワークシートを配布。 ○(中心発問)動物園を解雇される元さんが考えさせられたことはどんなことだろう。(20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく来たのにかわいそうだから。 ・2人がかわいそうだった。 ・時間が過ぎていたけど、大丈夫だと思ったから。 ・早くみつかってほしい。 ・何かあったらどうしよう。 ・自分の責任だ ・きまりは守らなければいけないのだからしかたがない。 ・これでいいんだ。 ・きまりを破ったのは自分だけど、解雇処分は重すぎる。 	□元さんが2人を動物園に入れた理由を考えさせる。その心情を感じさせる。 □切り返し発問を適宜入れ、考えを深める。 □規則を破って、2人を動物園に入れたことによって、起きてしまったことに対する元さんの思いを感じさせたい。 ▽切り返し発問を適宜入れ、考えを深める。 □元さんが考えさせられたことを考え、小集団による話し合いの中で、多様な意見を聞いたり、確認したりすることにより、思考を深めさせる。 □机間指導をしながら、小集団による話し合いの状況を確認する。 ▽切り返し発問を適宜入れ、考えを深める。 ▽話し合った内容を学級全体で共有させ、広げる。
終 末	3 教師の説話(1分) ワークシートに、授業で学んだこと、考えたこと感じたことを書き、自分の考えを深める。(5分)		□もしも二人の子どもに何かあったら、母親からの手紙や動物園の職員、元さんはどうなっていたか。

〈小集団による話し合いと書く活動〉
 1 ワークシートに自分の考えを記入する。
 2 小集団による話し合いを行う。
 3 話し合いの後、再び自分の考えをワークシートに記入する。
 〈学級全体で考えを共有する〉
 数人が自分の考えを発表し、学級全体で話し合う。

カ 評価

法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努めていこうとする心情を育むことができたか。

キ 授業記録（司会カード、ワークシートを使って、中心発問における話し合いの場面）

展開	生徒の反応
<p>(中心発問) ○動物園を解雇される元さんが考えさせられたこととはどんなことだろう。</p> <p><u>ワークシートに自分の考えを書く。</u></p> <p><u>4人で意見交換する。</u></p>  <p><u>4人のグループや、全体で共有した後に考えたこと、感じたことをワークシートに書く。</u></p> <p><u>全体で意見を共有する。</u></p>	<div data-bbox="654 448 1404 1232" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><u>小集団による話し合い</u></p> <p>SA それでは、話し合いを始めます。SB さんお願いします。</p> <p>SB きまりを守らなかった自分が悪いんだと元さんは考えたのだと思う。</p> <p>SA それは元さんが納得しているということですか？</p> <p>SB そうです。</p> <p>SA SC さんはどうですか。</p> <p>SC 心の中で、元さんは悔しい思いをしていると思います。</p> <p>SA それはどうしてですか。</p> <p>SC 良いことをして解雇されたら悔しいと思うからです。</p> <p>SA SD さんはどう思いますか。</p> <p>SD 元さんははればれした顔で辞めたのだから、納得していると思うのですけれど。</p> <p>SA 元さんは規則を破った自分が悪いから解雇には納得していると思います。</p> </div> <div data-bbox="654 1254 1404 1993" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><u>学級全体の共有場面</u></p> <p>S1 動物園のきまりを守らなかったのだから、解雇されても仕方がないという意見ができました。</p> <p>T 元さんは納得してやめたということですか。</p> <p>S1 そう思います。</p> <p>S2 たしかに動物園の規則をまもらなかったのは悪かったけど、解雇はないんじゃないかという意見がありました。</p> <p>T その意見について S2 さんはどのように思いますか。</p> <p>S2 私は元さんが晴れ晴れとした顔で辞めていったのだから、納得しているのだと思います。</p> <p>T どうして納得したのかな。</p> <p>S3 良いことをしたと思うけど、やっぱり規則を破ったのだから辞めようと思ったのだと思う。</p> </div>

ク 授業の考察

(ア) 司会カードを使用した話し合いについて

司会カードを使用した小集団による話し合いは、6回目であった。3年生ということで、話し合いの進め方や考え方については理解が早く、2回目の授業からは、司会カードを使用せずに、円滑に小集団による話し合いをすることができていた。「どうしてそう思うのですか」や「それはこういうことですか」など、切り返しながら、更に深く意見を引き出していた。複数の小集団では、自分の考えを他者に伝え、意見を求めたり、話を広げたり、切り返しなどを使って、多様な意見や考えに触れ、道徳的な価値や思考を深められるような話し合いが展開されていた。

(イ) ワークシートの記述について

ワークシートの活用は中心発問で行い、個人で考えたことを記述後、小集団による話し合いで気付いたことや感じたことなどをメモとして記述しながら進めた。小集団による話し合い前後において、考えたことや感じたことに変化が見られた生徒の記述の一部を紹介する。

生徒	始めの考え	話し合い後の考え
1	きまりを破ったのだから仕方がない。	きまりを破れば、社会人なら責任を負わねばだめだ。何か事故があつてからでは遅い。
2	これだけのことで解雇はひどすぎる。	自分の考えが甘すぎた。解雇されるとは思わなかったけれど、それだけのことをしたんだから解雇はしょうがない。
3	動物園のルールを守らなかったのだから、解雇されても仕方がない。二人の子供が無事でよかった。	自分が招いたのだから、責任をとるのは当然だ。後悔はない。

生徒1は話し合いを経て、「社会人なら責任を負わねばだめだ。」と、自分の考えに友達の考えを取り入れている。生徒2は友達の意見を聞いて、「解雇はひどすぎる」から「解雇されるのもしょうがない」と考え方が変化している。生徒3は友達の意見を聞いて、ルールを守ることが大切であるという思いが更に強まっている。

このように、小集団による話し合いの結果、多様な意見に触れて自らも考え、更に深い考えを記述していることが分かった。

(2) 実証授業②（平成24年10月9日 第2学年）

ア 主題名 理想の実現 1－(4)

イ 資料名 「日本の近代建築に魂をこめて-辰野金吾-」（「心みつめて」東京都教育委員会）

ウ 資料の概要

東京駅を設計した日本の近代建築の巨匠、辰野金吾の生き方が描かれた資料である。鉄筋コンクリート造で建設する予定だったが、丸の内の街並みを考え、赤煉瓦に息づいた日本人の精神を尊重し、鉄骨煉瓦造へと変更をした。周囲からは反対を受けるが、それを押し切り、美しい景観づくりを大切にしたり、化粧煉瓦の色調を見るために何度も見本を業者に焼かせ色具合を確認したり、設計図を何度も引き直したりするなど、金吾が理想とする建築物になるよう尽力する様子が資料には描かれている。完成した東京駅を満足感と自信に満ちた顔で眺め、息を引き取る寸前には万歳三唱をしたという金吾の生き方を知

ることを通して、理想の実現に向けて努力することの大切さを感じさせ、生徒自身が理想の実現を目指して努力する生き方を追求できるよう指導したい。

エ ねらい

先人の生き方から自己の理想に信念をもって実現する尊さを学び、理想の実現を目指し、努力しようとする態度を育てる。


オ 指導過程

	学習活動と○主な発問	・予想される生徒の反応	□指導上の留意点 ▽補助発問等
導入	1 東京駅の建物の写真を掲示し関心をもたせる。 ○「この建物を知っているか。」 (3分)	・知っている。東京駅。 ・知らない。どこだろう。	□東京駅の煉瓦造の建物の写真を掲示する。 □建物をデザインした人物に学ぶということを押さえる。
展開	2 資料「日本の近代建築に魂をこめて-辰野金吾-」を読み(12分)、次のことについて考え、話し合う。 ○「金吾が鉄骨煉瓦造にこだわったのはなぜか。」(5分) ○「金吾が化粧煉瓦の見本を何度も焼かせ、その色具合を確認し、設計図を何度も引き直したのはどんな思いからか。」(5分) ○(中心発問)「金吾が完成した赤煉瓦の駅舎を前に、『満足感と自信に満ちあふれた顔』だったのはなぜか。」 (15分)	・誰がなんと言おうと東京には煉瓦造が合うと考えたから。 ・周囲の建造物との調和を大切にしていたから。 ・何としてでも自分の思い描いている煉瓦造にしたいという思い。 ・妥協は許さないという思い。 ・東京のシンボルとして恥ずかしくないものにしたいという思い。 ・自分が思い描いていた通りの出来栄であったから。 ・まわりが何と言おうと、東京のシンボルになるという確信がもてたから。	□金吾の考える東京駅の建物の理想について考えさせる。 □周囲の反対にあったときの金吾の心情やそれを押し切る金吾の信念の強さにも触れる。 ▽「周囲の反対にあったときに、コンクリートに戻そうとは考えなかったのだろうか。」 □建築技術の進歩だけでなく、景観を大切にしていた金吾の思いにも触れる。 ▽「建築の進歩だけでなく、景観を大切にしていた金吾についてどう思うか。」 □金吾が東京駅の化粧煉瓦について並々ならぬ情熱を注いでいることに気付かせる。 □建設中の金吾の完成への思いに触れる。 ▽「金吾が業者に『努力主義者になってください。』と言えるのは、なぜか。」 □完成後の金吾への評価について確認する。 □死ぬ寸前に「万歳」を三唱するという金吾の生き方を通して、自己の生き方と重ね合わせ考えさせる。 □小集団による話し合いでは、金吾の生き方からどんなことを感じたかを自由に話し合わせる。 □学級全体での共有では、理想の実現についてまとめる。 □自分の理想の実現のために何をやっていいわけではなく、金吾のように猛勉強して、正しい価値観を身に付ける必要があることに気付かせる。 ▽金吾の生き方からどんなことを感じたか。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈小集団による話し合いと書く活動〉</p> <p>1 ワークシートに自分の考えを記入する。</p> <p>2 小集団による話し合いを行う。</p> <p>3 話し合いの後、再び自分の考えをワークシートに記入する。 〈学級全体で考えを共有する〉</p> <p>数人が自分の考えを発表し、学級全体で話し合う。</p> </div>		
	3 自分とのかかわりで考える。 ○「理想を実現するために大切なこととは何だろうか。」(5分)		
終末	4 理想の実現についての教師の説話を聞き、自分の考えを深める。 (5分)		□本時を振り返り、理想の実現について自分なりに考えたことや学級で共有したことを踏まえて更に理解を深め、自己の生き方を考えさせる。

カ 評価

- ・辰野金吾の生き方から理想の実現について考えを深めている記述が見られるか。
- ・理想の実現に向けて自分なりに努力しようとする発言や記述が見られるか。

キ 授業記録（司会カード、ワークシートを使って、中心発問における話し合いの場面）

展開	生徒の反応
<p>（中心発問）</p> <p>○金吾が完成した赤煉瓦の駅舎を前に、『満足感と自信に満ちあふれた顔』だったのはなぜか。</p> <p>・ <u>ワークシートに自分の考えを書く。</u></p> <p>・ <u>4人で意見交換する。</u></p>  <p>・ <u>4人のグループや、全体で共有した後に考えたこと、感じたことをワークシートに書く。</u></p> <p>・ <u>全体で意見を共有する。</u></p>	<p>小集団による話し合い</p> <p>SA: SBくんお願いします。</p> <p>SB: 自分のつくりたかったものを完璧に完成させることができたから。</p> <p>SA: それを聞いてSCさんはどう思いますか。</p> <p>SC: 私の意見と近いと思う。</p> <p>SA: SDさんはどう思いますか。</p> <p>SD: 完璧に完成したっていうこともあると思う。</p> <p>SA: SDさんの考えを聞かせてください。</p> <p>SD: 曾瀬さんのつくった一丁ロンドンや丸の内の建物、街並みとが一体となり、美しい景観をつくれたと思ったから。</p> <p>...</p> <p>SD: 「完璧」ってどういう完璧なの？</p> <p>SB: 自分の想像していたものと完璧に同じものってことでしょ。</p> <p>...</p> <p>S1: 自分のイメージ通りにできたから。</p> <p>T: 同じような意見の人は手を挙げてください。</p> <p>S2: 出来てうれしかった。</p> <p>S3: 軽いなあ。</p> <p>T: でも、出来たらうれしいよね。</p> <p>T: そういうS3くんはどう考えましたか。</p> <p>S3: すばらしい人生を送れたから。</p> <p>S4: まとめたなあ。</p> <p>T: すごくまとめましたね。</p> <p>T: 「すばらしい人生」というのはどういうところからできたのですか。</p> <p>S3: 東京駅の担当を自分ができて自分以外の人生を送ることができた。</p> <p>S5: 大衆の人にも喜ばれたからよかったと思う。</p> <p>T: そうですね。みなさんはどう思いますか。</p> <p>S6: 東京駅が一つだけ目立っていたから。</p> <p>T: 一つだけが際立って目立っていたのかな。</p> <p>S7: 街並みをこわさないようにした。</p> <p>...</p>

ク 授業の考察

(7) 司会カードを使用した話し合いについて

司会カードを使用した小集団による話し合いは5回目であった。活動には少し慣れてきており、司会カードを司会者に手渡せば、細かな説明をしなくても話し合いが進む様子が見られた。司会者は司会カードに記載してあるキーワードをうまく使いながら司会進行を円滑に行うことができた。

小集団による話し合いの中で、自分の考えを他者に伝えながら、他者の考えに触れ、多様な価値観を感じられることができたと考えられる。そして、小集団による話し合いの利点として、生徒がふと疑問に思ったことを率直に聞くことができる雰囲気があることが挙げら

れる。例えば、完成した東京駅について「完璧」という表現した生徒に対して、完璧とはどのようなことを言うのかと疑問を投げかけると、「自分の想像していたものと『完璧』に同じものである」と意見が返ってくる。このようなやり取りができるようになると司会カードの必要はなくなり、生徒同士が相互に積極的に話し合いをすることに意義を感じながら話し合いが活性化していくと期待できる。

(イ) ワークシートの記述

a 始めの意見と話し合い後の意見の変容

生徒	始めの考え	話し合い後の考え
1	みんなから評判になったから。	評判になったし、自分のイメージ通りにできたから。
2	つくったのを見て、堂々と立っているから。	自分の考えたことを思い貫き通して、悔いもなく完成させたから。
3	自分のつくりたいものをつくることができたし、実際には建築家から見てどうかという問題ではなく、一般人から見てどうかだから自信と満足さがある顔をしている。	細かい所もきちんとできたし、イメージ通りに建てられたから満足で、自信に満ち溢れている顔になった。もしかしたら他の建築家の人は、自分たちよりも良いものを金吾さんが建てたから、うらやましくてそう言っているのかもしれない。
4	自分がすごく努力してやっと完成したものだし、自分を信じてつくったものだから。	「理想のものができたから。」という意見を聞いてすごくなるほどと思いました。
5	みんな努力してくれて自分の満足できるものをつくることができたから。	自分のやりたかったことができたし、思い描いたものをつくることができたから。自分の満足するものをつくり上げることができた。

中心発問で始めの考えから小集団による話し合いを終えた後の考えに違いが見られた生徒について考察すると、他者の意見を聞きながら、自分自身の考えを更に膨らませたり（生徒1、2）、考えを深めたり（生徒3、4、5）している様子が見られる。大筋の意見は変わらない生徒でも、より具体的な記述をするようになった。

b 授業を通して学んだこと

<ul style="list-style-type: none"> ・私は周りの人に何か言われたら「やっぱりそうなのかな」と思っていたけれども、周りの意見だけではなく、自分の意見を大切に自信をもちたいと思った。 ・いつも自分の思ったことを貫き通せないことが多かったので、私も人に流されないような芯の通った人になれるようにがんばりたいです。 ・辰野金吾のように自分の考えたことを最後まで貫き通し、それにこだわりぬくことは大切なことだと思った。 ・金吾さんの努力と熱意、それに周りに合わせようとする考えや想像力がすごいと思った。自分もこんな人になりたいです。 ・もし自分が辰野金吾さんの立場だったら、周りの人に流されずに突き進むと思います。理由は、自分がやりたいと思うからです。自分でやりたいと思ったことは絶対にやります。もしやってみたら、何かいいことがあるのかもしれないから。 ・私も辰野さんのように自分の意見を大切に、努力主義者になれるようにしたい。
--

終末の記述から、辰野金吾の生き方を学び、自分もそのような生き方をしてみたいと考えていることが読み取れる。

(3) 実証授業③（平成24年10月29日 第1学年）

ア 主題名 強い意志 1—(2)

イ 資料名 「願いのバトン」（中学生 キラリ☆道徳 正進社）

ウ 資料の概要

北京オリンピック男子400mリレーにおいて日本チームが銅メダルを獲得するまでの実話である。日本チームは体格のハンデを克服し、強豪国と互角に渡り合うための戦略として「アンダーハンドパス」を採用する。しかし、高度な技術を要するため、なかなかうまくいかない。悲観的になる選手たちだが、朝原選手は前向きな声を掛け続け、やがてバトンパスが成功するようになる。そして迎えた北京オリンピック。個人種目で満足のいく結果が残せず、調子もあまり良くなかった選手たちだが、「絶対にバトンを渡す」という強い信念をもち、全力で走りきった。

この資料を通して、目標をもって生きる素晴らしさを感じさせ、強い意志をもち、その達成に向けて努力し続けることの大切さを学ばせたい。

エ ねらい

困難に直面しても自分の可能性を信じ、強い意志をもって目標を達成しようとする心情を育てる。


オ 指導過程

	学習活動と主な発問 (○)	予想される生徒の反応	□指導上の留意点 ▽補助発問等
導入	1. 400mリレー選手の写真を提示し、アンダーハンドパスを体験させ、関心をもたせる。(6分)		□アンダーハンドパスの難しさをおさえ、本時の展開につなげる。
展開	2. 資料「願いのバトン」を聞き(8分)、話し合う。 ○アンダーハンドパスでうまくバトンが渡せなかったとき、選手はどんな気持ちだったか。(5分) ○(中心発問)「自分たちには無理なのかもしれない」と感じる選手もいる中、朝原選手はなぜ諦めなかったのか。(23分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちには無理だ。 ・悔しい。 ・本当にできるのか、不安だ。 	□教師が朗読する。 □困難に直面したときの思いに共感させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (小集団による話し合いと書く活動) 1 ワークシートに自分の考えを記入する。 2 小集団による話し合いを行う。 3 話し合いの後、再び自分の考えをワークシートに記入する。 (学級全体で考えを共有する) 数人が自分の考えを発表し、学級全体で話し合う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの自分がしっかりしなければならぬ。 ・仲間の力を信じていた。 ・今はやれることをやるしかない。 ・最後の五輪だから精一杯やりたい。 	▽「他の3選手が抱いていたようなマイナスな感情は全くなかったのだろうか。」 ▽「メダルを獲得することは困難という世間の声をどのように感じていたのだろうか。」 □困難に耐え、前向きに努力していこうとする大切さに気づかせる。
	3. 補助映像を見て、思いを膨らませる。(3分)		□実際の映像を映す。 □困難を克服し、目標を達成したときの成就感を想起させる。
終末	4. 本時のまとめをする。(5分) ・今、目標の達成に向けて努力していることやこれから頑張りたいことなどを書く。また、授業を通して感じたことや考えたことを書く。 ・教師の説話を聴く。		□身近なものに視点を変え、自分のこととして考えさせる。 □日常生活のほんの小さな目標でもよいことを確認する。

カ 評価

- ・目標を持って生きることの素晴らしさを感じることができたか。
- ・目標を持ち、その達成に向けてねばり強く努力していこうとする心情を育むことができたか。

キ 授業記録（司会カード、ワークシートを使って、中心発問における話し合いの場面）

展開	生徒の反応
<p>（中心発問）</p> <p>○「自分たちには無理なのかもしれない」と感じる選手もいる中、朝原選手はなぜ諦めなかったのか。</p> <p><u>・ワークシートに自分の考えを書く。</u></p> <p><u>・4人で意見交換する。</u></p>  <p><u>・全体で意見を共有する。</u></p> <p><u>・4人のグループや、全体で共有した後に考えたこと、感じたことをワークシートに書く。</u></p>	<p>小集団による話し合い</p> <p>SA: SBさんはどうですか。</p> <p>SB: 他国とは身体能力に差があるから、日本がメダルを取るためには、アンダーハンドパスしかないから。それで年齢的にもこれが最後のオリンピックだと思ったから。</p> <p>SC: すごい失礼なこと言ったね。</p> <p>SA: うーん、でもそうだね。</p> <p>SC: 20年も走り続けていけば、体の方もついていけなくなるから、まあそうか。</p> <p>SA: SCさんはどうですか。</p> <p>SC: メダルを獲得するため、強豪国に勝つため、成功させるしかないから。</p> <p>SA: 最後司会が発表します。原因・理由を考え、それを注意しながら練習すれば、必ず成功すると思ったから。今までの経験上、諦めたら全て終わりだと知っていたから。身体上で不利だったら、リレーの鍵となるバトンパスを成功させるしかなかったから。</p> <p>SB: 何でそこまでして勝たたいんだろう。そう、思わない？</p> <hr/> <p>T: S1さんはどう思ったのかな。</p> <p>S1: このチームならできると思った。</p> <p>T: グループではどんな意見が出たのかな。S2さんはどう思ったの。</p> <p>S2: 最後のオリンピックになるかもしれないから。</p> <p>T: 同じように思った人いるかな。S3さんのグループはどうかな。</p> <p>S3: 長年の想いがあったから。メダルが欲しかったから。</p> <p>S4: 外国人とは体格が違うから、バトンパスの技術を磨いた方がメダルの距離が縮まると思ったから。</p> <p>T: なるほど。S5さんはどうですか。</p> <p>S5: アンダーハンドパスを成功させて、メダルを取り、日本人でもメダルを取れることをアピールしたかったから。</p>

ク 授業の考察

(ア) 小集団による話し合いの工夫について

生徒同士が意見交換をし、ねらいとする価値について深めていく時間を確保できるように、発問を精選した。中心発問に迫るための基本発問は1つにしぼった。

中心発問では、アンダーハンドパスがうまくいかない状況にあっても、チームを引っ張り、困難を乗り越えようとする朝原選手に焦点をあてた。話し合いに入る前にワークシートに書く時間を確保したので、一人で2～3つ考えて発表した生徒もいた。「最後のオリンピックになるかもしれない」「仲間を信じていた」「強豪国に勝つにはアンダーハンドパスしかない」「諦めてしまったらそこで終わってしまう」「最初からできる人はいないし、頑張っ努力していれば必ずできると信じていた」など、様々な意見が出た。司会の生徒は、司会カードのキーワードを使い、「これを聞いて～さんはどう思いますか」などと他の生徒

に問いかけていた。司会カードを使った話し合いはこの授業が5回目であったので、他の生徒の発言したことに何らかの反応を示すきっかけづくりとしてキーワードは有効であった。特に、授業記録で紹介したグループ（欠席者の関係で3名）は、司会カードにある形式から少しずつ離れ、自分たちで話し合いができる段階にあると思われる。他の人の意見を聞いた感想を間髪いれずお互いに言い合ったり、疑問に思ったことを投げかけたりする様子が見られる。一方で、グループによっては、話し合いで出た意見をまとめようとするなど、キーワードの上手な使い方に課題が残った。どのような場面でそれぞれのキーワードを使えばよいのか、目指す話し合いはどんなものなのか、更に説明する必要があると感じた。また、話し合いが活発にできないグループについては、机間指導をしながら、補助発問などができれば更に深めることができたと感じる。

授業後のワークシートからは、「みんな、それぞれ違うことを思っていて感心しました。」という記述もみられ、多様な意見に触れる機会となっていることが分かる。

(イ) ワークシートの工夫について

中心発問に対し、自分の考えを書く、小集団による話し合い中にメモをとる、全体で共有した後に考えたことを書くための枠を設けた。生徒がどのように考え、話し合いを通して考えを深めていったのかを授業者が知ることができ、大変有効であった。以下は、実際にワークシートに生徒が記したものである。

生徒	始めの自分の考え	話し合い後の考え
1	・日本人は外国人選手と筋肉のつくりが異なるため、瞬発力をきたえるより、バトンパスの技術を磨いた方がメダルへの距離が縮まると思ったから。この4人ならできると思ったから。	・日本人選手が短距離走でメダルを取るのは困難だろうと考えられていたが、そのレッテルをはがしたいとも思ったのではないか。
2	・他国とは、身体能力に差があるから日本がメダルをとれるのは、アンダーハンドパスしかないと思ったから。そして年齢的にもこれが最後のオリンピックだと思ったから。	・このチームなら絶対にできる！！と朝原さんが思ったから。
3	・4大会もオリンピックに出場して、まだリレーでメダルをとっていないから、この北京オリンピックでメダルを絶対とろうとしたから。	・朝原選手は36歳で、次だと40歳なので体力的におとろえてしまうので北京オリンピックでメダルをとることを思っていたのかと改めて思いました。

生徒1は話し合いを経て「～とも思ったのではないか」と、自分の考えに友達の見解を取り入れている。生徒2は友達の見解を聞き、これまで考えていなかった朝原選手が仲間を信頼する気持ちを感じている。生徒3は友達の見解を聞いて、朝原選手のメダルにかける思いをより強く感じている。

このように、授業後にも生徒が考えを深めていく過程をみることができるので、発問が適切であるか、また、どういう手だてがあれば、より深めることができるかなどの振り返りに活用できる。

VI 研究の成果

1 「小集団による話し合いの工夫」の成果

(1) 道徳の時間のオリエンテーションの活用（話し合いの意義の共通理解）

話し合いは広く行なわれてきてはいたが、生徒自身がどのように発言をしたらよいか、進めたらよいか、広げたらよいか分かりにくいことから、有効に機能していないことが多かった。道徳の授業開きのオリエンテーション等で話し合いの意義について考える時間をもつことにより、話し合いの目的意識を生徒にもたせ、具体的な方法を提示することができた。生徒は「友達の多様な意見を聞きたい」意識がもともと高かったが、話し合いが「友達の多様な意見を聞く」活動であることを全体で確認することによって、お互いの意見を聞くことがルールとしてより強く定着した。

この結果として、「発言をしやすい雰囲気がある」「友達の意見を聞きたい気持ちがある」の割合が増加したことにつながったと考えられる。

(2) 資料の選定

本研究では、どんなタイプの資料でも「小集団による話し合い」が有効に実施できると考えた。一般的に話し合いがしやすいと考えられる「主人公が道徳的価値に気付き行動が変容していく資料」や「主人公が葛藤する場面がある資料」以外の資料を扱った授業においても、生徒が生き生きと活動することができることが分かった。

(3) 発問構成

本研究では、小集団による話し合いを中心発問の場面で行った。そのために、「本時のねらい」に迫り、様々な意見を引き出すことができる中心発問をどの場面で行うかを考えることによって、指導者側にとっても「本時のねらい」からずれることのない授業展開を考えることができた。基本発問は中心発問に向けて連続性のあるものが望ましいことも分かった。

(4) 話し合いの進行

「小集団による話し合い」は授業の中で最も時間をかけ、深めたい部分であった。司会カードの導入により、その具体的な形態を全員に示すことができた。4人を1グループとした話し合いは回を重ねるごとにスムーズになり、慣れてくると司会カードを使用しなくても進められるようになった。流れを理解すると発言も活発になり、発言の仕方、キーワードの使い方も臨機応変に対応できるようになり、話し合いが活発になるとともに、内容も深まった。

話し合いを続けて、見られた変化は以下のようなものがある

- ・より多くの生徒が自分の考えをもととするようになった。
(道徳の時間への参加意欲の向上)
- ・自分の考えをグループで話す際に抵抗が少なくなってきた。
- ・「同じグループの男子も、結構しっかり考えているんだと分かった。(ワークシートより)」等、級友の新たな一面を発見する機会が増えた。
- ・今までの話し合いでは淡々と意見を述べて終わることが多かったが、友達の発言したことについて何らかの反応を示すことが増えてきた。
- ・お互いのワークシートを読んだり、耳をすませて積極的に聞いたりする姿が見られるようになった。
- ・他教科や他学年でもこの形態を取り入れるようになり、学校全体において話し合いが定着

してきた。

(5) 学級全体での共有

司会がローテーションし、グループごとに発表する形態は、多くの生徒の意見を聞くことができる。また、「グループにおける話し合い内容の報告」は「自分の考えの発表」に比べるとプレッシャーを抑える効果も見られ、発表に対して消極的な生徒が自然に発言できる場面が増えた。全員の顔が見える座席配置は、全体で意見を共有する際、発表者以外がフォローしやすい良さがあった。

2 「ワークシートの効果的な活用」の成果

(1) 中心発問において

書く活動を中心発問だけにしぼることによって、話し合いの時間をより多く確保することができた。また、ワークシートを配布するタイミングも中心発問後になるため、資料範読時の意識を内容理解に集中させることができた。さらに、授業後に、授業者がワークシートを読むことで、生徒一人一人がねらいとする道徳的価値に迫れたかを見極めやすくなった。

(2) 小集団による話し合い、終末において

ワークシートの構成を工夫することにより、生徒が書きながら自分の考えを組み立てることができるものとなった。意識の変容が視覚的に把握しやすく、生徒自身も「最初は〇〇と思っていたが、友達の意見を聞いて、□□だと思った。」というように話し合いの意義を理解して参加する様子が伺えた。

回数を重ねるうちに記述量も増え、バリエーションに富んだ意見を複数記入する生徒も出てきた。

(3) アンケートとして

生徒が授業に取り組む姿勢を振り返ることが第一の目的であるが、指導者が授業を振り返る際にも大変参考となった。例えば、少し難しいと思われた資料を扱った後で「興味をもって読むことができた」となっていると手応えを感じることができる。また、話し合いが盛り上がったように見えても「授業の内容について深く考える事ができなかった」となっていれば反省しなければならない。

回数を重ねるうちに、多くの生徒から「自分の考えを伝えることができたか」「他の人の意見を聞くことができたか」の評価項目において数値が向上したことは、話し合いの工夫によって生徒が生き生きと活動し、思考を深めていたと捉えることができる。

VII 今後の課題

「小集団による話し合い」、「書く活動」が道徳の時間において大切であり有効であることは中学校学習指導要領解説道徳編にも示されているとおりであり、その具体的な方法について研究を進めてきた。検証の結果、様々な資料で、より多くの生徒が取り組むことができる活発な「話し合い」の方法を提案することができた。しかし研究の過程で以下のような課題も見付かった。

1 「小集団による話し合いの工夫」について

(1) 時間配分

話し合いに時間がかかってしまい、終末部分に十分な時間がとれないことが多かった。継続的に小集団による話し合い活動を行うことにより生徒が話し合い活動に慣れることと、中心発問

に向けて連続性のある基本発問をいっそう吟味することが課題である。

(2) 資料の精選

「どんなタイプの資料を扱った場合でも話し合いは有効である」ことを検証し実証することができた。生徒がそれぞれの考えを共有するという点では「偉人の話」のように主人公の道徳的価値に変化があまり見られない資料でも活用に成果が見られた。しかし、より多様な考えの発言があり、生徒同士の影響による意識の変化が見られるのは「主人公が道徳的価値に気づき行動が変容していく資料」や「主人公が葛藤する場面がある資料」であった。どのような授業においても、指導者は内容をよく吟味して、生徒の実態に合わせた資料の精選をしなければならない。

(3) ねらいに迫る発問（小集団による話し合いで考えを深めるための発問）

全体で意見を共有する場面等、生徒の思考を深めるためには、生徒の反応に対して言葉を補ったり、切り返したりする指導技術が不可欠である。補助発問のタイミングや生徒の意見の引き出し方など、指導技術面において、更なる研さんが必要である。

(4) 生徒が思考を深めたかどうかの見取り

小集団による話し合い活動の様子を全て一人の教師が見るには限界がある。そこで、学級全体で話し合いの内容を共有したり、ワークシートの記入状況から話し合いの内容や思考の変化を見取ったりすることが大切である。

(5) 小集団による話し合いの段階の検証

生徒の発達段階（学年）、もしくは個人の聞く能力によっては司会カードの中から切り返しのキーワードを選ぶことが難しい場面が見られた。話し合いの指導は発達段階に応じた手だてが必要である。

その他の留意点として以下のことが考えられる。

- ・相手の発言に対して傾聴することの大切さを強調する。
- ・小集団による話し合いの活動中に、思考を深めるための教師の働きかけを行う。
- ・学級全体での共有場面で教師が手本となり、切り返し等を実践する。

2 「ワークシートの効果的な活用」について

(1) 時間の確保

書く活動には一定の時間を確保する必要があるが、十分な時間がとれないこともあった。今後、話し合い活動と書く活動のバランスを考え、授業者が指導過程における時間配分を十分に検討する必要がある。

(2) 小集団による話し合い活動後の記入欄について

小集団による話し合い活動後に、友達の意見をそのまま書くだけの生徒もいた。話し合いを通して友達の意見に対する自分の考えや自分自身の考えの変化を自分の言葉で書かせる必要がある。

「小集団による話し合い」、「書く活動」の研究を通じて、道徳の時間が生き生きとしたものとなり、生徒の思考がより深まっている。そして、道徳の時間のねらいである道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深めることにつながったと考える。同時に、上記のような課題も浮かび上がってきた。今後も実践を重ね、更に研究を深めていきたい。

平成24年度 教育研究員名簿

中学校・道徳

地区	学校名	職名	氏名
台東区	浅草中学校	教諭	◎富森 一行
大田区	馬込東中学校	教諭	廣澤 和子
中野区	南中野中学校	主任教諭	内田 善人
江戸川区	瑞江中学校	主幹教諭	○丸谷 大輔
八王子市	第五中学校	主幹教諭	鴨狩 淳一
武蔵野市	第五中学校	教諭	丸山 晶子
多摩市	多摩中学校	教諭	林 航太

◎世話人 ○副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課

統括指導主事 牧野 英一

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

指導主事 熊木 崇

平成24年度
教育研究員研究報告書

中学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6882
印刷会社 株式会社 イマイシ